

1. グループヘッダレコード

メニュー「チェック 2/グループヘッダレコード」で、数値化区分と取得年月の変更の際に、要素がないグループヘッダレコードがあると、処理を停止してしまう問題を修正しました。

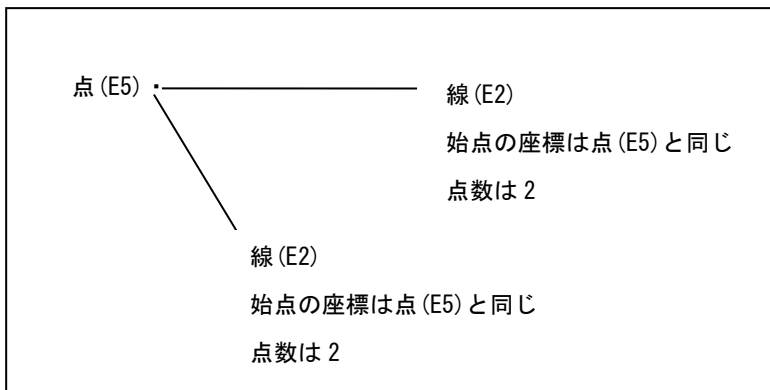
2. 点と線を方向へ変換

新メニュー「DM から DM/点と線を方向へ変換」を追加しました。

本来は方向(E6)となるべき要素を点(E5)と線(E2)で作っておき、方向(E6)に変換するための機能です。
次のような地物を想定しています。

4132 電話柱

4142 電力柱



点(E5)に注目し、次の条件で線(E2)を探します

- ✓線(E2)の分類コードは点(E5)と同じ
- ✓線(E2)の頂点数は2
- ✓線(E2)の始点が点(E5)と同じ座標

条件が合えば、点(E5)と同じ座標に方向(E6)を作成し、方向をセットします。元の線(E2)が複数あれば、複数の方向をセットします。元の点(E5)と線(E2)は削除します。



DM ファイル入力フォルダ

指定されたフォルダ内の.dm あるいは.kih を参照します。

点(E5)と線(E2)を方向(E6)にする

上記の変換処理を行います。

方向(E6)を点(E5)と線(E2)にする(方向の線が2本以上の場合)

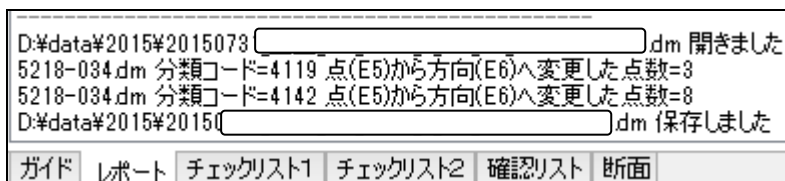
逆の処理で、方向(E6)を点(E5)と線(E2)に変換します。但し、方向(E6)に複数の方向がある場合が対象で、流水方向など方向が一つの場合は、分解の対象外です。

方向を示す線の長さ(メートル)


点(E5)と線(E2)を方向(E6)にする際に、作成する方向(E6)の点と方向を示す座標との長さを指定します。この長さで計算した座標を DM ファイルに記録します。

DM ファイル出力フォルダ

変換した DM ファイルを保存します。変換がなくても DM ファイルを保存します。



レポートパネルには変換した点の数を表示します(上図)



(5)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4119	有線柱	方向	2/2
(6)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	1/2
(6)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	2/2
(7)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	1/2
(7)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	2/2
(8)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	1/3
(8)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	2/3
(8)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	3/3
(9)	6.dm	点(E5)を方向(E6)に変更	4142	電力柱	方向	1/2

ガイド レポート チェックリスト1 チェックリスト2 確認リスト 断面

確認リストには各方向をリストアップします（上図）。